

柏木ビジョン

新宿区立

柏木小学校

2024.6.14

3年生音楽 リコーダーの授業

「雨ふり水族館」から音楽の授業が始まりました。3年生はまだリコーダーを習い始めたばかりです。草深先生が子どもたちに、尋ねました。

「リコーダーで良い音をふくために、そもそも良い音とはどんな音でしたか？」

子どもたちが次々に答えます。

「やさしい音」

「キーという音がならない」

「吹き方とかで音楽の感じ方が変わる」

「音程が途中でずれたりしない」

草深先生は、そういった今まで復習を押さえつつ

「良い音を出すには4つの技があります」

★穴のふさぎ方 … 指の腹でやさしく

★息の出し方 … 大きなシャボン玉をふくらませるように

★姿勢 … 肩の力を抜いて足は床に、背筋を伸ばして

★タンギング … 下を使う。two(2)の音



シとラで演奏しよう

シの音とラの音を子どもたちがペアとなり、お互いに出し合います。

「正しい音が出ているかな、お隣の人と確かめましょう」



お互いのチェックが終わると、次はシだけの音で曲を吹きます。次はラの音だけ。小さなステップを踏みながらも、着実にリコーダーの技術が身についていくことに、子どもたちは安心感を覚えているようです。

「虹色の風船」に取り組む

全員で曲調を確認するために、音階で歌ったり、リコーダーで吹いたりしました。そもそもこの曲は、すべてシとラの音だけでできています。子どもたちは、皆が皆、できたという喜びからか、笑顔があふれています。

「虹にはいろいろな色があるよね。虹色といったら、どんな色を風船につけたいですか。風船の色を決めて、どんな風が吹いて、どんな気分の日なのかを想像して、演奏の仕方を工夫しましょう」

子どもたちには、ペアに1枚ずつワークシートが配られ、お互いに相談をしながら、風船の色とどんなお天気なのかということを決めていきます。

ワークシートを記入している途中、草深先生がイメージの幅をふくらませるために、3つのピアノ伴奏を演奏しました。

- ①ゆるやかなメロディ 風がたなびくようなイメージ
 - ②テンポのよいメロディ はずむようなイメージ
 - ③コミカルなメロディ ズンチャ ズンチャというテンポ
- 「②の終わり方がきれい」
「①がいいかな」

という声が聞こえてきました。子どもたちは、その後真剣に練習を重ねていました。

授業が終わったところで、子どもたちにインタビューをしました。

「リコーダーでどんな演奏をしてみたいですか。」

「ゆっくりとふあふあした曲」

「ふあふあして、みんなが楽しくなるような曲です」

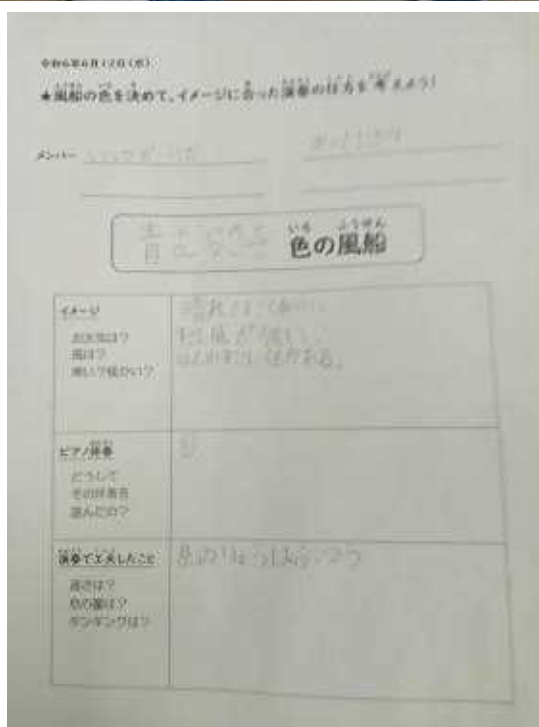
風船が曲目のせいか、ふあふあした感じを出したいということでした。

草深先生にも聞いてみました。

「どういったことを大切にしているんですか」

「表現を選択して、自分のイメージとすり合わせるで、自分のイメージに近づけていくことが大切だと思っています。決まったことをちゃんとやろう、自分の思いをこうしたいということを実現していける音楽としたいです」

子どもたちの音楽は、単に譜面通りに曲を覚えて演奏するものではなくて、イメージをもち、それを表現していこうとする授業であることと、それに取り組む子どもたちは素敵だなと思いました。



学習カード

